

Kerby

Greystone College Vancouver Campus

Diploma in International Business Management Co-op

Greystone Collegeのプログラムはいかがでしたか？

マネジメントの知識を体系的に学ぶことができました。特にアカデミック期間中、クラスメイトと協力してプロジェクトを進め、何度もプレゼンテーションを行った経験は非常に貴重でした。この過程で、コミュニケーション力やコラボレーション力、そしてプレゼンテーションスキルを大きく伸ばすことができ、これらは今後必ず役に立つと確信しています。



カレッジの授業は難しかったですか？

授業の内容自体は難しくありませんでしたが、法律などの専門的な分野に関連する英単語の理解には苦労しました。また、様々な国から来たクラスメイトとのコラボレーションは、それぞれが異なるバックグラウンドや文化を持っていたため、最初は戸惑うこともありました。

Greystone Collegeの気に入っているところは？

様々な国の生徒と出会えることです。それぞれ異なるバックグラウンドや文化、言語を持っており、多くが向上心のある人たちだったため、大きな刺激を受けました。

Greystone Collegeでどのような仕事探しのサポートを得ることができましたか？

WPS (Work Placement Skill) などのレジюме作成講座や面接対策がありました。また、ジョブフェアではリクレーターと直接話す機会があり、良い練習になりました。さらに、Co-opアドバイザーによるレジюмеの添削や空きポジションの情報提供なども受けられました。

Greystone Collegeではどのように勉強することを意識しましたか？

予習や復習を欠かさず行い、その際にわからない英単語や表現があれば随時調べていました。プレゼンテーションの準備があるときは、他の生徒と協力して取り組みました。

ILSCとGreystone Collegeの違いは何だと思いますか？

ILSCでは英語そのものの学習が中心でしたが、Greystoneでは大学の講義のように専門的な学習が中心でした。ILSCではペアワークが多かった一方、Greystoneではグループワークやプレゼンテーションが多かったと感じています。

どのような人にGreystone Collegeをおすすめしますか？

ワーキングホリデーでは働くことが中心になるとと思いますが、専門的な知識やスキルを身につけたい人、

他国の生徒とコラボレーションしたい人、プレゼン力を高めたい人におすすめします。

Co-opプログラムはどのようにあなたに影響を与えましたか？

コープ期間中、日本での就職活動も並行して行っていましたが、コーププログラムでの経験は私のキャリアの選択肢を広げ、選べる仕事のレベルを引き上げた実感しています。留学中に得た英語力や、多国籍メンバーとのコミュニケーション力・コラボレーション力は、大きなアピールポイントになったと確信しています。

最近留学に対し意味があるか疑問に持つ人も増えていますが、どのように考えますか？

海外留学を皆がすべきとは言いませんが、英語力を急速に伸ばしたい人、価値観を広げたい人、多文化に触れたい人、何かにチャレンジしたい人、自分らしさを見つけたい人などには海外留学をすることをお勧めします。日本でももちろん英語の勉強や多様性などに触れることはできると思いますが、現地でしか得られない経験や学びがあると思います。海外留学は不安でいっぱいだと思います。私もそうでした。迷っていて一歩を踏み出す勇気が出ない人には、ぜひその勇気を振り絞ってほしいです。たとえチャレンジしてうまくいかなかったとしても、「留学に挑戦した」「海外で生活した」という事実は残りますし、そこから得られる学びも多くあります。

将来のプランは決まっていますか？

Coop期間中にオンラインで就職活動をしており、東京のIT企業より内定をいただき、来年2026年の4月より働く予定となっています。

Café Workshopのアクティビティはいかがですか？

新しいキャンパスにはエスプレッソマシンが設置されており、そこで週に1回ほどILSC・Greystone生徒さん向けにアクティビティが行われます。アクティビティでは、エスプレッソマシンの基本的な使い方や、ミルクのスチームの仕方、ラテの作り方など基礎的な知識や実践的なスキルの伝授を行なっています。

Café WorkshopやCafé Work Skillsで学ぶスキルはカナダで働くために役立つと思いますか？

はい、その通りだと思います。実際バンクーバー現地のカフェでバリスタとして働いていたため、現地のカフェが経験を重視し、即戦力の人材を求めていることを実感しています。